

宮古発

竜神崎防潮堤工事



波を静め、船の安全性を確保するため整備が進められてきた宮古港・竜神崎地区の防潮堤。その本体となるコンクリート製の箱「ケーソン」の

最後の据えつけが行われました。防潮堤建設は、1988年から始まり、完成すると全長400メートルに及びますが、東日本大震災によって11のケーソンが傾くなどして補修作業を余儀なくされました。防潮堤は灯台などを設置して平成29年度に完成する予定です。(10/23 ニュースエコー)

釜石発

新ホール建設開始

津波で被災し取り壊された釜石市民文化会館にかわる新たなホールの建設が始まります。新ホールは2年後の完成を目指していて、鉄筋コンクリート造りの地上4階、地下1階建て。800席の大ホールは座席を動かして床面をフラットにし、スポーツイベントなど多目的に使用が出来ます。また、市中心部の津波浸水域に建つため、一次避難場所とはなりません。災害後に長期の避難生活が必要になった場合を想定して非常用発電装置を備え、食料や飲料が備蓄される予定です。(10/23 ニュースエコー)



大槌発

仮設団地で交流会

被災地の仮設住宅を建設した盛岡の建築会社タカヤが、大槌町の仮設団地で交流会を開きました。タカヤは大槌町と山田町、釜石市に仮設住宅を建築しましたが、震災直後から年2回こうした交流会を開いており、今回で10回目を迎えました。交流会ではサンマ焼きや芋の子汁、キノコご飯が振る舞われ、参加した人たちは「長く支援を続けてもらい感謝しています」と話していました。(10/24 ニュース)



陸前高田発

広田湾大漁まつり



陸前高田市の海の幸を満喫できる「広田湾大漁まつり」が行われ、大勢の人が旬の味覚を堪能しました。この祭りは震災の影響で途絶

えていた「広田半島大漁まつり」を、名称を変えて復活させたもので今回が初開催です。広田湾で養殖されたカキやホタテなど地元の海産物の販売が行われ、訪れた人たちが買い求めていました。また鮭のつかみ捕りも行われ、訪れた人たちは祭りの復活に浜の復興を感じていました。(10/25 ニュース)

岩泉発

「認定こども園」開園

津波で被災した岩泉町・小本地区の保育園が「認定こども園」として移転・整備され開園しました。小本保育園は被災後、内陸部の仮設園舎で運営されてきましたが、幼保一体の「認定こども園」として復興まちづくりの中心となる三陸鉄道小本駅の近くに移転・新築されました。総事業費は2億3000万円で国の災害復旧費と復興交付金が充てられています。(10/27 ニュースエコー)



IBC東部支社発

さんりく元気ラジオ！

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

今週は、IBC岩手放送東部支社の江幡平三郎支社長がいわて災害コミュニティメディア連携連絡協議会事務局長という立場で、11月10日(火)に大槌町で開催される「地域とラジオについて考えるシンポジウム」について伝えてくれました。宮古・大槌・大船渡・陸前高田の沿岸4つの災害FM局・コミュニティFM局とIBCラジオのパーソナリティや関係者が一堂に集まり、これまでの活動や、今後の復興・再生においてラジオにできることを共に考えていくシンポジウムです。IBCからは村松文代アナウンサー、また、いわて災害コミュニティメディア連携連絡協議会会長の齋藤徳美岩手大学名誉教授も出演するという事です。(10/28)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122